

# 年少組、第三保育期

——満四歳、満五歳——

## 生活訓練

### 第一週

幼稚園の方からいへば、第三保育期第一週も、如何にも  
厳めしいこころであるが、幼児の方としては、まだお正月の  
つゞきである。元日に式をしない幼稚園もあらう。園とし  
ては式があつても、のんびりミ缺席してゐる子もあらう。  
兎に角く、八日こそ新しい年最初の幼稚園だ。お目出度  
うぐぐのつゞきだ。早速生活訓練も早過ぎるさいふ人があ  
るかも知れない。しかしそうじやあない。オトソのホロ酔  
ひ機嫌で開園してゐる譯ではなし、きこだつて生活あるミ  
ころ、いつだつて訓練ありである。えッ、なんですッて、

訓練はあるべきでせうが、お正月早々こわい顔をするのは  
いやですつて。だから困る。訓練さいふミ、すぐこわい顔  
を考へてゐるんだから困つて仕舞ふ。そりや、おゑんまさ  
まも御訓練なさるだらうが、ゑびすさまだつて、だいこく  
さまだつて、にくく顔でいくらでも訓練をなさる。それ  
さころか、私はいつでも思つてゐるんですが、幼稚園の先生  
方が時々するさこわい顔をしてゐるから、却つてほんさう  
の訓練が出来ないのだ。さころで、お正月早々、さなただ  
つて、こわい顔をしてゐる保姆さんがありますまい。そ  
の、やさしい、いゝお顔で一つ訓練が願ひたいのである。

先づ第一週の初めにお辨當のこゝが出てゐる。お書き初めかと思つたら、お食ひぞめかなんて、そんなこゝをいふ

人の方がいぢぎたないのである。家庭だつて先づお雑煮に明けましたお正月である。幼稚園だつて、お辨當から新年の訓練が始まるに不思議はない。こいつて、何も第三保育期になつて、お辨當が始まつた譯ではなし、これまでだつて、いつでも訓練されて来たこゝである。たゞ「皆さん、年齢が一つ大きくなつたんでせう」といふこゝで、好機

逸すべからずと、再訓練をするだけのこゝである。こゝで、前にも解説したこゝがあると思ふが、食事といふものは、生活訓練として最も都合のいゝ機會である。いくら形式をやかましくいふこゝも、——訓練には、さうしても多少の形式方面を離れ得ない——全くの抽象形式になつては仕舞はない。女學校なきでするから膳、から茶碗、から皿のお作法と違つて、こゝではちやんこ中味がはいつてゐる。

食慾といふ生活的最具體事實性のものが基礎になつてゐる。さう形式だつて、見ても、生活を離れないであらう。尤も、食事中あまりやかましくいはれては、折角のお辨當

の味が少しはへるかも知れない。訓練者として氣をつけなければならぬのはその點だけである。

第二の事項として、双六なき勝負ごき遊びに就ての態度といふのがある。之れも亦至極くお正月らしく、いゝ機會をつかまへてあると共に、勝負といふ、食慾と相併んで人間生活を支配してゐる本能を基礎にしての訓練であるこゝろに妙味がある。さて、勝負遊びでさういふ點を訓練すべきか。自分が勝つて人を負かすこゝになる。それは無理矢理なこゝである。よろしく、自ら負けて人を勝たせなければならぬ。さうしてこそ高尚なこゝである。そこで行つたら勿論大變である。勝負ごきは勝つ心を養ふものである。訓練にしても、勝ちたい心を、さうまでを強めるものでなければならぬ。殊に、さうかするに、負けても平氣さいつたやうな、本能缺陷兒童があつて、それが如何にも理想の勝負者のやうに見られたりする。以てのほかの話である。しかも、勝つには勝つの作法もあり、自ら勝つのはいゝが、人を負けさせるのを以て快とする方は少々輕くしたい。さういふ甚だ譯の分らないこゝに聞えるが、勝ちの

快感ミ、負かしの快感ミは明らかに區別されるものである。それが一方だけさいふこは理論上あり得ないこととして、經驗の事實ミしては、さつちが主になるかの相違はあり得る。それが性格にもよるのであり、性格にもなるのである。勝負の生活訓練は一つに此點を以て基本原理とするものさいつてよい。

勝ちたさが過度に主になる時、づるさも起る。勝負心の訓練に對して、勝負法の訓練である。正々堂々なんていふまでもないが、勝負はさこまでも、初めの願ひ、後の結果で、途中は途中そのものゝ楽しみでありたいのである。さて、此訓練、さうしてするかさいふこになるミ、先生が傍觀、監視者に立つてゐるだけでは、さうも、ほんさうの處までいかないであらう。先生もいつしよにその遊びの中へはいつて、見事な勝負振りを見せてやるのが一番いゝらしい。但し、それがなか／＼六つかしい。

## 誘導保育

### 第二週

之れは要するに、怪我をしないためミ、風をひかぬためミ、聊か、用心本位の事項である。ミこころで、かういふことミは、そのわけを餘り強く言ひきかせたり、殊に、その怖るべき結果を強調しすぎたりするミ、幼児が臆病になつて仕舞つて却つていけない。斯ういふことこそ、實に實に、習慣を習慣ミしてつけさへすればいゝのである。

### 第三週

道路横斷の注意ミは、大都市幼稚園の場合である。田の畔路を蛙ミいつしよに横切り越すのに、別に大した注意もない。蛙の方を踏みつけないやうにすればいゝのである。それが大都市の道路では、逆に、幼児が蛙の位置にあつて、うつかりしてゐるミ蹈みつぶされさうになる。——ああ、まだ小學校へも上らない幼児に、こんな苦勞をさせなければならぬのか。それも、幼稚園さいふ極樂園へ通ふのに。ああ、大都市の道路は恐ろしい地獄道だ。